

ちば かい どう 千葉 街 道

区内には、江戸時代から主要な道であり現在も幹線道路として使われている道がいくつかあります。千葉街道もその道のひとつです。

元佐倉道

現在、区内を斜めに横切っている千葉街道は、江戸時代には「元佐倉道」とよばれていました。

この道は両国(墨田区)からたてかわ 堅川に沿って進み、中川(旧中川)をさかさい 逆井の渡しで渡り、西小松川村しんまち 新町(旧小松川第二小学校のあったあたり)から、まっすぐ小岩市川の渡しまで伸びていました。

市川・船橋・佐倉・成田の方へと続く重要な街道であり、船橋以東のとうがね 東金街道が整備されたけいちょう 慶長末年(1615)頃から、両国橋が架けられたまんじ 万治2年(1659)頃までに順次整備されたと考えられます。

元佐倉道は、明治8年(1875)に「千葉街道」と改称され、はちぞうばし 八蔵橋以東は道幅も広げられ、大正7年(1920)に国道7号となりました。



「元佐倉道」の道すじ



千葉街道(左:総合文化センター, 右:中央図書館)

なお、千住せんじゅから新宿にいじゅく(葛飾区)を通って小岩市川の渡しに出る道は「佐倉道」と呼ばれ、江戸時代にはこちらが本街道でした。



八蔵橋と旧千葉街道

大正のはじめ頃から、荒川放水路の建設工事が始まり、大正11年(1922)には小松川橋ができたことにより八蔵橋から西側の道は経路が変わりました。人の流れも大きく変化し、八蔵橋から五分一ごぶいちを過ぎ、中川堤防までの旧千葉街道は、昔のにぎわいや人影も少なくなりました。



五分一の旧千葉街道(先は中川堤防)

四股

以前は千葉街道(元佐倉道)と「行徳道」ぎょうとくみちとは十字に交わっていました。その交差点を「四股」よつまたと呼んでいましたが、荒川建設の際に付近の家や学校なども移転しました。

その際に移された四股橋(一ノ橋)の橋桁や、交差点にあった「両国・市川道」と刻まれた道標どうひょうは今も大切に保存されています。

昭和27年(1952)に国道14号に改められた千葉街道は、松島一丁目の京葉交差点から八蔵橋交差点を通り、菅原橋から小岩方面に通じる重要な道路です。京葉道路や湾岸道路と同じように、今も東京と千葉をむすぶ幹線道路であり、また「千葉街道」という名称は東京都通称道路となっています。



四股橋石造橋桁(部分)

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)